

メッセージアウトライン コロサイ人への手紙 2:5～7 「キリストにあって歩む」

[5]「私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいきます」

ここで言われている「霊(プニューマ)」とは精神とほとんど同じ意味で使われており、それに理性と意志と良心が属している人間の不滅のいのちの原理(聖書辞典)と考えられる。聖書には霊とたましいとが同じ意味で使われている場合もある。→黙示録6:9,20:4,へブル12:13

この霊、精神においてパウロはコロサイのクリスチャンたちといっしょにいたと言う。この表現は不思議に思われるかもしれないが、私たちも遠く離れた友人や家族のために祈る時に、その精神、その思いにおいてともにいるということがあるのではないだろうか。またパウロはコロサイ教会の人々の具体的な情報を聞かされていたので「あなたがたの秩序と…堅い信仰とを見て喜んでいきます」と言うことができたのであろう。

「秩序(タクス)」とは一致、規律のあること、整理整頓などを意味し、別のことばで言えば混乱がない様子と言え。教会が神の前に純潔で正しくまた平和であるために規律を持って治めること。また違反者には戒規を執行すること。このようなことが正しくなされて初めて教会の秩序は保たれる。「堅い信仰」とは、何ものにも動かされない堅固で強固な信仰という意味。コロサイ教会の人々はこのように教会の正しい秩序と堅い信仰を実際に持っていたのでパウロはそのことを知り喜んだのである。

[6]「あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい」

彼らはイエス・キリストを堅い信仰を持って受け入れている。そしてパウロはさらに「彼にあって歩みなさい」と勧める。彼とは、もちろんキリストのことである。その勧めは次の7節においてさらに詳しく説明される。

[7]「キリストの中に根ざし、また建てられ、また教えられたとおりの信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい」

ここでは四つのことが言われている。①「キリストの中に根ざす」…樹木が土の中に深く根を下ろして生きるようにキリストからの養分、いのちをいただいて生きる。そうすればどんな試練が来てもみずみずしく輝いていることができる。②「建てられ」…キリストの上に建てられるということ。クリスチャンの信仰生活は人間の造り出した哲学やむなしい理屈、一時の感情や思いつきなどではなく、キリストに土台を置き、その上に建て上げられなければならない。③「教えられたとおりの信仰を堅く」すること…伝えられ教えられた福音を素直に受けて、信仰を堅く持ち、それを維持し強化していくこと。④「あふれるばかり感謝する」こと…クリスチャンの生活は不満や愚痴の生活ではなく感謝の生活である。→Iテサロニケ5:16~18

パウロはこのコロサイ人への手紙の中でも何度も感謝することを強調し、それが健全な信仰生活のしるしであることを示している。→1:12,3:15,17,4:2 真の感謝は謙遜な思いの中から生まれる。傲慢や高慢な心からは出て来ることはない。生かされていることの感謝、守られていることの感謝、日々の糧の与えられていることの感謝、健康への感謝、みことばを読み、礼拝できることへの感謝、信仰の兄弟姉妹との交わりができることの感謝、罪赦され、救われていることの感謝……。数えて行けば私たちは感謝の理由に事欠くことはない。自分の欠点や失敗や周りの環境ばかりを見てつぶやき不満を漏らすのではなく、それらをもすべて働かせて益としてくださる神を信じてあふれるばかり感謝することが大切である。このような生き方こそ、「キリストにあって歩む」ことなのである。

私たちもここで教えられていることを実行し、キリストにあって力強く歩んでいく者になりたい。